

# 肛門の手術を受けられる方へ 腰椎麻酔 手術日 月 日 (月・火) 時

( )様

主治医( )

受け持ち看護師( )

	入院～手術まで	治療当日		治療後1日目	治療後2日目
	( )	( )		( )	( )
		手術前	手術後		
処置 治療 検査	入院後、書類を提出して下さい 看護師より手術について説明をします 必要時、抗生剤問診表を書いて頂きます 血栓予防ストッキングのサイズを測定しお渡します 手術に必要な物をまとめます ＜必要物品＞ ※ナプキン又は尿取りパット ※オムツ(テープ式と履くタイプを各1枚) ※パジャマ ※下着 退院までに薬剤師から薬についての説明があります	手術着に着替えていただきます 下着を脱いで履くタイプのオムツをはきます ( )時に浣腸をします ※浣腸はしない場合もあります 血栓予防ストッキングをはきます リストバンドをつけます * 眼鏡、コンタクトレンズ、義歯 時計、ヘアピン、アクセサリ類はすべてはずして下さい ( )時に歩行または車椅子で手術室へ向かいます	術後、体についているもの ・点滴 ・創部のガーゼ  ※痛みや吐き気がある場合は我慢せずお知らせ下さい ※頭を激しく動かすと術後に頭痛が続くことがありますので気をつけてください ※最初に出た尿はカップに取り看護師に見せて下さい	朝、医師が手術後の状態を診察します  排便後はこすらずに当て拭きを行い、下着にナプキン又は尿取りパットを装着して下さい  出血がある時や排便が困難な時はおっしゃってください	午前中に退院できます  
点滴	ありません	( )時頃から持続的に点滴を始めます	帰室5時間後に鎮痛剤の点滴をします 帰室6時間後に点滴を抜きます(状況によっては翌朝となります)		
内服	医師、看護師の説明に従って下さい 持参の内服薬は看護師に見せて下さい 21時に下剤をお渡しする場合があります ご希望があれば睡眠薬をお渡します	必要時、お薬を飲んでいただくことがあります	持参の内服薬の再開については医師・看護師の説明に従って下さい 鎮痛薬・胃薬・抗生物質・抗炎症薬を3日間内服します 必要時、下剤を内服して便をコントロールします 必要時、おしりに軟膏を塗布します		
活動	院内自由です 術後に使用するクッションの購入をご検討下さい(地下の売店で販売しています)		帰室後6時間はベット上安静です 看護師が点滴を除去後、院内自由です ※第一歩行は看護師が付き添います	医師の診察後許可があれば1日1回 3時間迄外出可です	医師の許可があれば退院できます
食事	医師の指示に従った食事を提供します 明日、午前から手術の方は夕食後より絶食です	午前の手術の方は( )時まで水・茶のみ飲めます 午後の手術の方は朝食後より絶食です 8～10時までは水・茶のみ飲めます ※上記以降は絶飲絶食です	帰室後6時間経過してから腸の動きを確認後に水を飲むことができます(看護師が付き添います)  午前に手術をした方は夕食より再開します	昨日、午後に手術をした方は朝食より再開します	朝食まで提供します
清潔	入浴・シャワーをして下さい 爪をきりマニキュアはおとして下さい	歯磨き、洗面はいつも通りしてください 化粧はしないでください 髪の毛の長い人はゴムで二つにまとめてください 入浴、シャワーはできません	帰室後6時間経過し、歩行できるようになれば、パジャマに着替え、下着にナプキン又は尿取りパットを装着して下さい	医師の許可が出たらシャワーできます ※患部には直接シャワーを当てずに、上半身から流れてきたお湯で軽く汚れを流す程度にしてください	
検温	10時、14時、19時頃に検温・血圧測定のため、看護師が伺います	手術中、ご家族の方は病室かデイルームでお待ち下さい	頻回に看護師が伺います	7時、10時、14時、19時	10時、他適時
その他	☆面会時間は平日15時～20時、土日祝日は13時～20時です ☆生命保険の診断書を持参された方は、手術後、退院日が看護師から伝達されたら3階の受付に午後から提出下さい ☆職場等に提出される院内書式の診断書をご希望の場合は、病棟クラークに御相談下さい ☆入院中は禁煙・禁酒して下さい				

☆病状に応じて、予定は変更になる場合があります。ご不明な点がございましたら、看護師におたずね下さい。

大阪中央病院肛門外科 2017. 7 改訂